

勇氣は機関車



平成28年 第71号
制作・編集・発行責任者
池部 徹

言葉

熊本地震後の八月 久しぶりに実家に帰省する日豊本線の電車の中、夢中で読書をしている男の子を見かけました。中学生くらいでしょう。丸刈りのその子は野球少年のようにも映りました。時おり見せる少年の笑みは既に本の世界に入り込んでいるのだろうと思わせるのでした。このような少年時代から活字に慣れ親しむことができて、ついつい羨ましい思いが込み上げてきます。

というのも学生時代あまり本を読む機会を持たなかった私は、このところずっと後悔の海を彷徨っているようです。ですからこの歳になっても苦手な活字と対峙しては悪戦苦闘の日々を過ごしているのです。

震災後は新聞の投稿記事に細かく目を通すようになりました。寄せられた体験談の中でも希望を見出す言葉や全国からの応援メッセージに励まされ、同時に言葉の持つ力に改めて驚嘆したからです。気持ちを伝えるためには、当然ですが自分の知り得る言葉でしか表現できません。たくさんの言葉を知るということはつまり、たくさんの考えを持つということであり、豊かな人生にも繋がるものです。言葉は自分自身を表現するために人間に与えられた最高のアイテムです。言葉をより知るには読書が欠かせない。一会の少年が、そう語りかけてくれました。読書の秋、晴耕雨読の古事に習い、折に触れ読書に慣れ親しみたいとこの晩秋にしみじみと思いを馳せています。

平成二十八年十一月十日

機関車倶楽部主宰 池部 徹